

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室きらり桃花台校		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年11月1日 ～ 2025年11月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育や福祉分野の資格を持つ指導員が多く、専門的な支援が提供できる。指導員間の交流や話し合いも積極的に行い、事業所の雰囲気が良い。ご見学や体験後、契約される方が多く、ご利用者も定着し長くご利用されている方が多い。	個々の発達段階や保護者のニーズに応じて活動内容を考え、年齢や季節などに応じた支援プログラムを提供している。また、経験豊富な指導員や児発管が活動のアイデアを出し合い、互いに情報交換をしながら支援プログラムを立てて実践している。	社内の研修を積極的に受けたり他事業所の研修に参加し、自己研鑽を重ねている。また本やインターネットなどの情報を積極的に取り入れ、良い教材や活動内容があれば、指導員間で共有し、実践していく。他の指導員の支援の様子も見学し、学び合える環境づくりを行っていく。
2	保護者や子供に寄り添った支援や家族支援を丁寧に行っている。	保護者に送迎を行っていただいているため、直接支援の様子をお伝え出来たり、ご家庭や園、学校等の様子を伺うことが出来る。その際、お悩みやご相談があれば、その都度対応し、時間を設けて児発管が家族支援の一環として相談出来る場所を提供している。	子供の様子が気になることがあれば、こちらからも声をかけ、相談出来る場を提供している。また進学や進級のタイミングには、より丁寧に様子を見ていくように心がける。
3	広い療育室と充実した手作り教材を含めた療育用具で支援している。	支援室が広いと、机上の活動や粗大運動、サーキット遊びなどもののびのび行うことが出来る。また音に敏感な子供は他児の影響を受けることなく、独立した部屋での療育が可能である。	一番広い部屋は皆が使えるように話し合い、一部の利用者には偏らないように心がけている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児発利用者が少ない。早期療育の大切さをお伝えしていく。	クラゼミのイメージが強く、主に学習支援を行うところだと認識されていることが多い。	一度校舎をご見学されると、身体を動かしたり様々な活動を行っていることをご理解いただいている。また指導員全員が保育士の資格を持っているため、児発支援に慣れておりのびのびと活動できることを関係機関に積極的にアピールしていく。
2	駐車場が狭い。駅から遠いため保護者が車で送迎が必要になる。	ご利用時間が重なると、駐車場の車の出入りなどで交通整理が必要になることがある。	管理者や指導員で交通整理を行い、事故発生を防ぎ、他の利用者や近隣住民に迷惑がかからないような対策を講じている。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室きらり桃花台校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

12

回収数

12

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12				身体をたくさん使って活動出来ている。一对一のスペースとは思えない程広い。	一番広い部屋のご利用が偏らないよう、設定や活動に応じて皆が使えるようにする。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12					基本は担当制だが、複数の指導員が関わることで支援内容が偏らないようにしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11			1		シンプルな設定で気が散らないように玩具や支援用具が目に入らないように配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	1				支援前後や掃除の際、片付けや活動の準備を行い、消毒や換気を行っている。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	1			上手く出来なくても、子供の気持ちに寄り添い、共感して導いて下さりとても参考になる。毎回いろいろなことにチャレンジして成功体験を積み重ねることで自信がついてきている。	その日の子供の様子に合わせた支援を心がけていく。また先の見通しを持って支援を行うようにする。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	1			身体を動かすことから手先のことで、全般的に見て頂け有難い。	必要に応じて支援プログラムの見直しを行っていく。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	1				指導員から子供の様子を聞き取ったり保護者のニーズを定期的に確認した上で子供の様子を把握し、個別支援計画を作成している。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	2				児童発達支援ガイドラインに沿った支援計画を示したうえで具体的な支援内容を設定している。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	1	1			指導員の支援内容を確認し、支援計画に沿った活動が行われているか確認している。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	1			いろいろな活動があり、楽しんでいる。毎回一人の子供のために教材を準備していただき、子供もその日の活動を楽しみにしている。	様々な活動内容を考え、職員間で共有したり学び合えるようにする。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3	1	4		現在交流する機会はないが、必要に応じて、連携は行っている。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					契約時や必要に応じて適宜説明を行う。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	1	3		ご家族に対して研修やペアレントトレーニングの機会を設けていきたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	11		1		いつも日常生活の話を聞いていただき、助言をいただいたり次のプログラムに組み込んでいただいている。	指導員からフィードバック時に利用者の状況をお伝えし、保護者からも日頃の様子を伺い情報共有していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10		1	1	児発管に悩みを話し、心のケアをしていただいている。	より多くの保護者と面談できる時間を設けていきたい。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1			ちゃんと支援内容を分かりやすく伝えてくれる。	どの指導員も保護者やこどもに寄り添った支援や対応を心がけていきたい。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	3	1	6	保護者同士の交流や兄弟向けのイベントはこちらも求めている。	父母の会は行っていない。ご兄弟でのご利用がある時は、イベント性を持たせて一緒に活動を行うこともある。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10		1	1	説明は聞いたが、まだ活用したことがない。毎回のフィードバックで相談している。	指導員に相談があった場合、児発管に報告し、家族支援の時間を設けている。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11		1			子供や保護者と意思の疎通を行う時、周囲の状況を見てプライバシーに配慮したり、電話やメモで伝えることもある。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	1		3		ブログを定期的に更新し、活動内容の様子をお知らせしている。またLINEでも連絡事項の伝達を行っている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12					校舎全体を確認し、個人情報の取り扱いに配慮する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	1		3		曜日や時間を決めて実施し、なるべく多くの子供に経験してもらえようとする。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1		6		掲示物で避難訓練の様子をブログや掲示物で周知していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10			2	毎回支援に入っているので、安全面にも考慮されていることが分かる。	常に安全面に配慮して支援を行っていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1				安全面に細心の注意を払い、子供の支援に取り組んでいく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12				安心感から先生への我儘や甘えになっていることもあるが子供は先生が大好き。先生方に心を聞いている。	保護者からの温かい言葉を励みに一同気を引き締めて取り組んでいく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12				いつも通所を楽しみにしている。先生方が温かくいつも迎えてくれる。一時間では足りず、いつも帰りがたらず、家では次いつきらに行けるかを聞いてくるくらい楽しみ。	今後も楽しく継続してご利用していただけるよう充実した療育を提供していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	1			先生方がたくさん寄り添ってくれる。大満足。他事業所を詳しく知っているわけではないが、きらりの療育はとても充実していると思う。一人一人に合わせてとても準備をしてくれていると感じている。	今後も支援を楽しみにご利用していただけるよう支援内容を充実させていく。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室きらり桃花台校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児発では運動面が課題の子供が多く、同時間に広い部屋を使いたい時は、譲り合って使用している。	支援内容によって設定を工夫したり、広い部屋を使用する利用児が偏らないように指導員間で話し合っている、
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		現状では適切だが、ゆとりがない日もある。非常勤の指導員がいない時間は、余裕がなくなることもある。	指導員の休みなどに対応できるよう現在よりも1.2名常勤職員を配置してほしい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		2階の療育室を使用する時は、指導員が手を繋ぎ安全面に配慮しながら誘導する。	駐車場などの劣化が気になるため、現在修繕を要請中。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		玩具などが散りそうなものは布で覆い、目に入る刺激を少なくしている。	環境整備を含め、校舎内外で危ない箇所はないかどうかの確認を定期的に行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子供の特性や設定に合わせて部屋でのびのびと活動出来ている。	様々な活動に合わせて設置や片づけを協力し次の子供の活動のためにスムーズに行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に話し合いを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所評価を共有し、業務改善に繋げている。	保護者のご意見を取り入れ、出来ることから改善していきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		普段から話し合いを行っている。互いに意見が言いやすい雰囲気心がけている。	指導員の考えや意見等を日常的に把握し、業務改善に繋げていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に社内研修を行い、積極的に参加している。また社外研修は希望者があれば、参加出来ている。	今後も積極的に社内外の研修に参加していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		適切に支援プログラムを作成、公表している。	今後も発達段階に応じた支援プログラムを作成、公表していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的に利用児の課題やニーズを確認し、個別支援計画を作成している。	今後もアセスメントを丁寧に行い、支援計画に反映させていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議を開催し、支援内容を指導員と共有し、共通理解の上で個別支援計画を作成している。	定期的に担当者会議を開催し、支援内容の見直しや今後の見通しについて指導員と共有したうえで個別支援計画を作成する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々行っている。	計画に沿った支援が適切に行われているか、定期的に支援見学し、指導員の助言を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		定期的に確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		子供の様子を踏まえて具体的な支援内容で作成している。	子供の支援に必要な項目と具体的な支援内容が反映されているか定期的に見直しを行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		小集団活動などでは、必要に応じて計画の立案を行っている。	小集団やペア活動などでも利用児に合わせたプログラムの立案を行う。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		指導員同士で質の良い教材や活動を考え、皆で教材を作成したり、遊び方を伝え合っている。	職員間で支援内容の話し合いをしたり、新しい教材や活動を学び合い、プログラムが固定化されないようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援とペア活動や小集団療育を組み合わせる支援を行っている。	個別の課題と集団活動での課題やねらいを明確にして支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		小集団やペア活動では、話し合いを持ち、連携をして支援を行っている。	短時間でも話し合いが出来るように日頃から利用児の支援内容を互いに把握できるとよい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		お子さんの変化や課題があった時に限らず、必ず共有している。	振り返りを踏まえて課題や気づいた点を職員間で共有する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		分かりやすい内容で早めに記録を取っている	記録を早めに記入し、支援の改善に役立てる
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月ごと、また必要に応じて見直しを行っている。	見直しの時期を把握し、定期的に確認する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管・管理者が行っている。	ケース会議や関係機関との会議の内容を職員にも共有する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		市のこども連絡会にて障害福祉、保育、教育の連携を行い、情報共有している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		成長に合わせて他事業所との並行利用や移行卒業を視野に入れた支援を心がけている。また、必要に応じて園や学校等と連携を行っている。	一部の利用児だけでなく、必要に応じて情報共有を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者を通じてプロフィールブックの作成やお子さんの様子をまとめた資料を学校にお渡ししている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			助言をいただく機会が少ないため、研修などの機会を有効に利用していきたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		必要に応じて園からお子さんの様子を伺い、情報共有を行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援のフィードバック時に保護者様から園やご家庭での様子を伺ったり、育ってきた姿をお伝えしている。	時々実際の支援場面をご見学いただき、利用児の発達段階を共有していく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		市主催のものを掲示してお知らせしている。また家族支援として保護者様の相談援助を行っている。	ご家族に対してもっと積極的に家族支援が出来るとうい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に保護者様に説明している。	変更があった場合は、必要に応じて保護者様に説明する。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		作成にあたりご家族の意向を確認、納得されたうえで保護者様のご署名をいただいている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		ご確認いただき納得されたうえで保護者様のご署名をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		支援のフィードバック時に保護者様の悩みを伺い、助言を行い必要に応じて支援内容を考慮している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	小集団活動でご見学いただいた際に、少し交流がある。	父母の会については今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		必要に応じて行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的にブログやLINEでのお知らせやご連絡を行っている。	保護者様に積極的に周知していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		新規のご見学時や名前の分かるものが人目に触れないように掲示物などを配慮する。	常に気をつけていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		分かりやすく簡潔な指示や具体物を使って示したり、見本を見せて活動を行っている。	保護者に合わせた伝え方を心がけていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	特に行っていない。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		曜日や時間を決めて支援時間に子供たちと実際に避難訓練を行い、掲示物で周知している。	出来るだけ実際の避難訓練に多くの子供が参加出来るとよい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		通常の避難訓練に加え、非常災害の発生を意識した訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や変化があった時に保護者に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		クッキングの活動の際、材料を保護者に知らせた上でアレルギーの有無などを確認し、安全に配慮している。	保護者からの聞き取りで対応したり、安心できる材料をご家庭から持参していただくこともある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づいて研修や訓練を行い、全体が意識出来るようにしている。	安全管理に必要な研修を受け、具体的な訓練を行い、安心して支援が行われるようにしていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全に活動出来るように机や椅子の位置を配慮して身体を動かしたり活動に取り組んでいる。また、子供の動きを予測しながら支援を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		安全に活動出来るように支援を行っていく。また、ヒヤリハットがあった時は皆で共有し再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		事業所内で日々の活動を振り返り、具体的な例を挙げながら適切な言葉遣いや関わり方を学ぶ機会を設けている。	日々の支援の中で気になることや関わりが難しい時は、一人で判断せず、事業所で考え取り組んでいく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ず身体拘束を行う場合、事前に保護者に説明し、了解を得ている。また同意を得たことを支援計画に記載している。	



公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」桃花台校第二単位		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2025年11月1日 ～ 2025年11月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育 お子さま一人ひとりの発達・行動面に合わせた個別支援計画を作成してマンツーマンによる個別支援に取り組んでいる。（成長度によって集団療育の実施もあり）	マンツーマンの個別指導で、子どもたちの成長・発達した部分を見つけることができ、小さな変化に対して「褒める」ことができ、それらが「褒められる経験」「成功体験」となり「自己肯定感」を高めるようにしている。	常にスタッフ間で情報を共有化することにより、柔軟な支援プログラムを構成し提供していく。支援後保護者にフィードバックすることで自宅での生活習慣の充実を図るようご家庭での支援技術のアドバイスに取り組んでいく。
2	ハイブリット教室 ブラジル人スタッフを配置して、言葉の壁をなくすことで保護者やお子さまに安心して通所していただいている。	支援計画書・専門的支援等をブラジル人スタッフが分かりやすく保護者に説明、普段のフィードバックも実施している。また、日本人スタッフのフィードバックの際は、写真など使用し説明を行っている。	ホームページやSNSを通して取り組み内容を発信することで事業所周知に取り組んでいく。
3	広い教室 他事業所に比べると支援室が広く、子どもが伸び伸びと安全・安心に活動することができる。	イベントの際、可動式の壁を取り払うなどその都度支援に合わせた間取りにする工夫ができています。	子どもに合わせた教材を用いて支援を考え、より安全・安心な支援場所を提供していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ブラジル人専門校舎を認識されていることが多く、日本人利用者の問い合わせが少ない。	周知活動不足。	社会福祉協議会や相談支援事業所に訪問し、周知活動を行うと共にホームページなどのSNSを活用していく。
2	地域や他事業所との交流が少ない。	一部の学校や事業所との交流のみで関りが少ない。	児童発達支援センターが主催する研修へ参加した際、交流を増やしていく。
3	父母の会の活動支援や保護者会などの開催がされておらず、保護者同士の交流する機会が設けられていない。	保護者同士の交流する機会が設けられていないため、積極的なアプローチ不足となっている。	イベントの際、利用者の兄弟を招待するなどの対応を検討する。また、イベント開催時に別室で保護者同士の交流の場を設けるなども検討していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」桃花台校第二単位

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 9

回収数 8

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	0	1	0		支援内容やこどもの特性に合わせ支援室 を変えるなどの工夫をしていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7	0	1	0	言語聴覚士の配置がされていない。	早急な配置はできないが、外部の言語聴 覚士の助言をいただくなど対応してい く。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1	1	0		こどもの安全を第一に考え、手を繋ぎ声 掛けをし、事故防止を心がけていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	0	0	0		フィードバックをする際、支援をご見学 していただき参考意見を取り込み改善を していく。
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	7	0	1	0	言語聴覚士による直接の支援が行われて いない。	フィードバックや家族支援を行う際、疑 問点など伺い改善をしていく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	8	0	0	0		フィードバックや家族支援を行う際、疑 問点など伺い改善をしていく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	8	0	0	0		ニーズや課題など常に共有を行い取り組 んでいく。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	0	0	0		ガイドラインに沿った計画を行うと共に 相違があれば修正を行っていく。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		フィードバックや家族支援を行う際、支 援をご見学していただくなど確認の場を 設けていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います か。	8	0	0	0		フィードバックや家族支援を行う際、支 援をご見学していただくなど確認の場を 設けていく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。	6	0	1	1		検討し取り組んでいく。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につい て丁寧な説明がありましたか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング 等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。	4	1	1	2		検討し取り組んでいく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていると思いますか。	8	0	0	0		フィードバックや家族支援を行う際、支 援をご見学していただくなど確認の場を 設けていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	0	0	0		フィードバックを行う際、家族支援の機 会を多く設けていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	3	1		イベントの際、利用者の兄弟を招待する など対応していく。 また、別室で保護者同士の交流の場を設 けるなどの対応も検討していく。



	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	0	0	1		全ての利用者様に満足していただけるよう対応していく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	0	0	1		全ての利用者様に満足していただけるよう対応していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	0	1	1		全ての利用者様に参加していただけるよう機会を設けていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	0	0	0		継続し取り組んでいく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	1	0		全ての利用者様に満足していただけるよう対応していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」 桃花台校第二単位		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別で部屋ごとに対応されており、スペースが確保されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		個別に対応できている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	二階への移動が階段のみであるが、現利用者にバリアフリー該当者がいないため対応していない。	今後必要に応じて対応する。 空があれば一階の支援室対応も可能。 避難はしごとが困難な際の対応が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		支援毎に消毒など徹底されている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて対応できている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に会議など行い取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		結果を確認共有し、できる範囲で改善を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に会議や相談窓口など設け対応している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		事業所評価を元に改善を行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に各種研修する機会を設けている。	社外研修にも参加しスキルアップをすることも必要と感じる。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPにて公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		適切に行い対応している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議を行い作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成時に回覧し共有されている。 また、支援する際は、計画に沿って支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		都度、情報共有を行い取り組んでいる。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づき、五領域を踏まえた支援内容が計画されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		定期的に会議を行い取り組んでいる。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		支援内容を共有し、都度工夫し対応している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		状況に合わせ、個別、小集団活動を行い取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		都度、情報共有を行い取り組んでいる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		都度、情報共有を行い取り組んでいる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援後に記録し、共有している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適切にモニタリングを行い見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		可能な範囲で担当職員が参加し連携している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の連絡会などに参加し連携をしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて共有している。	状況によって頻度を多くした方が良いと感じる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		可能な範囲で対応している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		地域の連絡会及び担当者会議に参加している。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	特に対応していない。	現在活動する機会を設けていないが、今後機会があれば対応する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後にフィードバックを行い情報共有を行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		可能な範囲で助言を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時及び支援計画の立て直しの際、説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		必要に応じてアセスメントを行い、意向を確認している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画書を提示し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		都度、要望があれば対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	特に行っていない。	今後、計画等検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		可能な範囲で対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		必要に応じて対応している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		定期的に研修を行い周知している。 また、開示が必要な際は、都度確認を行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		都度、配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	特に行なっていない。	今後、計画等検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		定期的に行うと共に常に確認できる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に研修を行なっている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認し、対応している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	現利用者に該当者がいないため対応していない。 また、食材を取り扱う際は、都度、アレルギーの確認を行っている。	今後、必要に応じて対応していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に研修を行い対応している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に説明を行うと共に事業所内に掲示している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		記録し、共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		必要な場合は、保護者と協力し記録する。	